

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」下野校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 12月 29日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46名	(回答者数)	33名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 12月 29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育を主とした、お子様一人一人に合わせた支援内容の提供と環境の工夫	・活動中に注意が逸れないよう、掲示物を最小限にし、必要な物のみを整理して配置。また、指導訓練室から離れた場所にクールダウンスペースを設置し、刺激を遮断できる環境を確保 ・お子様の発達段階や特性を丁寧に確認し、「当事者視点」での療育を提供する。また、保護者様や相談支援員の方からの情報をもとに、多角的にお子様の状態を把握している	・個別支援計画・アセスメント・日々の療育記録をより強く紐づけることで、適切な目標設定と質の高い療育を提供していく ・5領域を意識した支援目標設定について、事業所内での検討を深め、総合的な支援方法を検討していく ・実際の利用者事例を用いたケース検討会や支援者交流の機会を増やしていく
2	お子様の安心感と主体性を大切にした支援姿勢が事業所全体で共有されていること	・お子様の行動や反応を丁寧に観察し、無理のない選択肢を提示する関わりを心掛けている ・活動の進め方や切り替えの際には、視覚的な情報や分かりやすい言葉を用い、安心して理解できるよう配慮している ・クールダウンが必要な場面では、刺激を遮断できる個室を活用し、気持ちを立て直す時間を確保している	・お子様の「安心できた関わり」「自己決定ができた場面」を言語化し、支援記録やMTGで共有する仕組みを整える ・具体的な事例をもとに、関わり方や声かけを振り返るケース検討の機会を増やす ・定期的に保護者様への家族支援を実施し、現状のお子様の状態と保護者様が抱えている不安や悩みを傾聴していく
3	職員間の情報共有とチーム支援体制	・定期的な事業所内でのMTGや会議の場で、全職員の意見を汲み取りながら話し合いによる意思決定を行っている ・本部が主体となり、整備が必要な法定研修や委員会などを実施し、有事の際への備えをしている ・委員会活動を通じて、虐待防止・安全管理・研修体制を委員会の組織編成を軸にして整えている	・第三者による外部評価は実施していないが、第三者的な視点を業務改善に活かすようにする ・地域資源との連携体制を強化し、緊急時にも対応できる仕組みを整える。その為に、県や各自治体、医療、教育機関との関係づくりを進めていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	物理的環境面の制約	・賃貸物件であるため、空調設備の増設など環境改善に制限がある。また、管理会社との協議が必要となり、即時対応が難しい場合がある ・個室は確保しているものの、季節による快適性の差が生じやすい。お子様によっては、過ごしにくさを感じる可能性がある	・管理会社と継続的に協議を行い、空調設備等の導入を検討する ・設備導入が難しい場合も、サーキュレーターや時間帯調整など代替策を講じる ・お子様の特性や体調面を踏まえ、利用時間や部屋の使い分けを工夫する
2	外部連携の機会が限定的	・日常業務や個別療育を優先する中で、外部との調整に十分な時間を割きにくい。また、サービス担当者会議や関係機関との会議日程が合いにくい現状がある ・地域資源について、まだ現状把握している場所が少なく、必要に応じた連携体制が取れない現状がある	・関係機関との連携について、優先順位を整理し計画的に機会を設定する ・必要に応じてオンライン会議なども活用し、参加しやすい形を検討する ・第三者評価について情報収集を行い、事業所に合った方法を検討していく
3	業務量や時間的制約により、振り返りや検討の時間が十分に確保しづらいこと	・個別療育を中心とした運営のため、時間帯による受け入れ人数には制限がある。また、平日の夕方以降の時間帯などご希望が集中する時間帯もある ・研修や会議の時間を確保したくても、支援優先となり調整が難しい場合がある	・定期的な全体MTGの実施を継続し、確実に情報共有・振り返りの場を設ける。また、支援直後に共有できない場合でも、翌日のMTGや社内ツールで補完する運用を徹底する ・業務の簡略化や効率化を図り、支援に直接的に影響する打ち合わせの時間を確保できるようにしていく

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」下野校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 4 6 人

回収数 3 3 人

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23	9		1	・人数が多い日は少し狭く感じる ・人数枠を設けているので十分だと思います ・大きければまた通っていいと思う ・運動をするわけではないので広さが重要かは分かりませんが、利用者が多い時には狭いと感じることがあります	お子様の活動に応じた適切な環境を提供していきます。また、時間帯の受け入れ人数やバーテーションを使った活動スペースの確保など工夫していきます
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	32	1			・1対1なので適切だと思います ・中学の学習支援をできる方が限られている為、少し不便な時がある	適正な基準人員を満たし運営をおこなっていきます。支援内容によっては、ある程度決まった指導員が担当することありますが、可能な限り複数の指導員で対応ができるよう検討していきます
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	27	5		1	・机のところに仕切りがあり、周囲の影響が少なくと思います（視聴覚的に）	個別教育を提供している事業所として、お子様一人一人に適した環境を提供できるよう事業所内で話し合いをおこなっています
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30	3			・整理整頓されていると思います	バーテーションやホワイトボードで仕切りをつくり、同時帯に複数お子様が利用する時間帯においても集中しやすい環境を提供できるよう工夫していきます
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	32	1			・子供の疲れていることをよく理解してくれて、肯定的に声掛けしてくれていると思います ・親子で大満足しています ・中学の学習支援をできる方が限られている為、少し不便な時がある	まずは、お子様が個別対応の中で丁寧に支援プログラムを受ける中で、興味関心をもって取り組める課題を提供できるようにしています
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	32			1		事業所が公表している支援プログラムについてはより保護者様に内容を把握していただきやすいような工夫をおこなっていきます
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	33				・子供の事をよく理解して頂いていますし、先生方で情報共有されて支援されていると思います。利用希望表に家族支援の希望欄があったりするので希望しやすいと思います	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	29	1		3		個別支援計画の中で5領域に応じた支援目標を、個々の状況に合わせて設定しています。また、お子様本人だけでなく、ご家族様へのサポート、必要に応じて保育園や幼稚園などの関係機関との連携ができる体制を整えています
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	32	1				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	30	3			・子どもの～やりたいという訴えも聞いてくれて、その時の状況に応じて支援してくれていると思います	活動プログラムに関しては、個別支援計画の目標を軸にいて、お子様が楽しく継続的に取り組める支援内容を考えています。また、保護者様との毎回のフィードバックでいまの課題等についてお伺いしています
保護者 への 説明 等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7	3	11	12	・数年ぶりに自治会の懇親があり、私が育成会役員をやっている中で豊原りに参加しましたが消極的なことが多いです ・他学校、他学年の子たちもいますが、個別なので交流ではないですが、一時的空間にいるのはいいと思います	ニーズに合わせた地域資源の活用ができるよう、地域の情報収集や各関係機関との交流の場への参加をしています
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	33				・丁寧に説明していただきました	ご利用を開始する際のご契約時に、契約書や重要事項説明書の中でご説明しております
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	33				・丁寧に説明していただきました	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	12	2	1	・まだ参加したことはない ・個別の相談をする機会が少ない（支援員の方とは療育後毎回して頂いている）	保護者様のニーズを踏まえながら、保護者会や研修会などの開催を検討していきます。また、面談に関してはこちらからのご提案を積極的に行っていきます
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	32	1			・利用時にいつも利用状況の説明があり、相談などの話をよく聞いてくれるので助かります	ご送迎を保護者様に毎回ご協力頂いていますので、お子様の支援だけでなく、支援が終わった後は保護者様と、毎回支援内容やいまのお困りごとなどについてお話をさせていただいています
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	2	2		・私自身のタイミングが取れず、タイミングが合わない状態です ・利用時にいつも利用状況の説明があります	ご要望を伺い、家族支援（事業所内面談）のご提案をさせていただいております
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	33				・親身になって対応していただいていると思います	きらりでは「当事者視点」の療育を大事にしており、お子様を中心として一人一人に合わせたかかわり心掛けています
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	7	9	9		きらりの内部研修を担当している「発達支援研究所」と連携し、保護者様に価値のある保護者会の開催などを今後、企画していきます

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	31	1		1	・ファミサポ利用や、時々、迎えが遅れてしまった時も快く対応してくださっていると思います	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	32	1			・利用時にいつもお話をしているので、情報伝達の配慮をしていると思います	なるべく保護者様がお忙しい中でもご連絡や教室からのお知らせが把握しやすいようLINEなどを活用していきます
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	26	1		6	・インスタみます	HPのブログやInstagramを活用し、教室からの情報を発信しています。イベント時の写真撮影など、いつもご協力いただきありがとうございます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	32	1				利用者の個人情報に関しては個別にファイリングし、事務室のロッカー内に保管。また写真撮影に関しては個人情報の同意書での署名と適宜確認を行っています
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22	6		5	・説明会の時に説明ありました ・まだ参加したことはない	緊急時の避難先についてはご契約時にご説明はしていますが、定期的にマニュアルの周知や避難訓練の報告などを発信していきます
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	3		12	・参加したことはないがやっていると思う ・訓練をしていると思いますが、我が子が利用日の日とは限らないので、訓練日だけでなくたまに災害の設定をした日があってもいいと思います	支援プログラムの中に非常時における行動などを行うことも検討していきたいと思います。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	29			4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30	1		2	・契約の時に伺いました	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	33				・行きたくないという言葉や拒否行動がないので安心していていると思います	お子様を受け入れるにあたって、まずは安心安全に通っていただく為、教室内の環境の整備と支援の質の向上を事業所として可能な限り対応しております
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	33				・先生方が本人の話をよく聞いてくれて尊重してくれているので楽しみにしていると思います ・毎回とても楽しみにしています。弟の部活等で利用できる日が限られてしまっていますが、できるだけ通いたいと思っています	個別療育の良さは、お子様一人一人に丁寧に寄り添いながら、興味関心を大事にして継続的に取り組みやすい支援を提供しやすいところにあります。今後「当事者視点」の考え方を大事にしていきたいです
	29	事業所の支援に満足していますか。	33				・本人にとってプラスになっていると思います。満足です	「本人支援」「家族支援」「地域支援」の3つの観点に合わせた支援を事業所として今後も提供していきたいよう、さらに事業所としての質の向上を目指していきます

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」下野校				公表日		2026 年 2 月 14 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個別療育を行っている為、時間帯を区切り受け入れ人数も調整しながら受け入れを行っています。	平日の夕方の時間帯や土曜日のご利用については、ご希望が多い時間帯もあるので、安全に配慮しながらがご案内枠の調整をおこなっています		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		適切な基準人員を満たした運営をおこなっています			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動中にお子様の注意が外に向かないように、活動スペースにおいてはなるべく掲示物などをなくして必要なもののみを整理して置くようにしています。	賃貸物件の為、必要に応じて管理会社とも協議しながら、適切な環境面の対応をおこなっていきます		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		パーティションやホワイトボードで仕切りをつくり、同時刻帯に複数お子様を利用する時間帯においても集中しやすい環境を提供できるよう工夫しています			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		指導訓練室から離れた場所でクールダウンスペースを確保しています。扉もある為、一時的に周りの刺激を遮断する事も可能です	個室の部屋は確保していますが、空調設備がなく時期によっては過ごしにくさも課題としてあるので、管理会社との協議の上、空調設備を整えていきます		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			評価面談や定期的な1on1面談を実施し、それぞれの職員が抱えている課題や今後も目標について話し合いをおこなう機会をつくっています		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者様から頂いた意見については、事業所内で協議した上で、可能な限りご要望に沿う形で対応をしています			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所の運営については、全職員の意見を汲み取りながら、話し合いを持ちながら意思決定をしています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価は実施していないが、第三者的な視点を業務改善に活かすようにする		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		行政から発信された研修案内などは、可能な限り参加しています。また、地域の発達支援センターに事業所側から情報連携の要望を依頼させていただいています	実際の利用者の事例検討会や支援者同士が交流する機会（外部の方も含め）を、更に増やしていきたいです		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		HP上で公開しています			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		社内のアセスメントツールを活用し、保護者様からお伺いした情報をもとに、支援計画の立案をしています。定期的なアセスメントを実施し、お子様の状態把握に努めています			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			サービス担当者会議の中で、個別支援計画のモニタリングの内容と個別支援計画の原案の内容を指導員に共有し、今後の支援目標について検討しています		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		定期的な事業所内でのMTGと社内の共有ツールを活用し、必要な情報はその都度共有し、全員が共通の理解をもって支援の対応ができるようにしています			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		社内でのアセスメントツールを活用しお子様一人一人の状態を確認しています。また、最低でも年に1回はアセスメントシートを更新し、成長に合わせた情報が把握できるようにしています	個別支援計画、アセスメントシート、日々の療育を今以上に紐づけが出来るような工夫を検討していきます		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		報酬改定後の内容については、社内の担当チームが中心に会社全体での研修を実施し、今後の方向性を示してきました。個別療育を提供している事業所として、よりお子様一人一人の状況に合わせた支援目標を立て適切な療育が提供できるような努めていきます	5領域を網羅した個別支援計画の目標の作成が難しいご利用者も少なくありません。事業所で提供ができる療育内容とお子様が必要としている支援の擦り合わせは今後も検討していく必要があると感じています		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			お子様の支援の担当は基本的にすべての指導員に関わる事になっているので、お子様の情報については常に共有し、支援プログラムについても協議しています		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		出来るようになったら次のステップに移行できるようプログラムを考え直している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		小集団イベントに参加できるお子様には声掛けをおこなっている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			時間帯によってはお子様の受け入れが続いていたり、研修などで時間が取れないこともありますが、定期的に全体MTGを実施し、お子様の情報を共有する場を作っています
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			その日の受け入れ状況などの利用で、支援後の確認ができない場合があります。その場合、翌日のMTGの場や社内の共有ツールを使い、情報共有を行っています
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援記録については、全職員がいつでも確認できる状況になっています。課題や方針についての打ち合わせは必要に応じて、話し合いの場を設けています	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		個別支援計画の更新と合わせて、モニタリングで実施し支援目標の見直しを行っています	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		5領域も意識しながら総合的にお子様も発達をサポートする支援内容を検討している	今後も総合的に事業所で提供できる療育を提供できるよう事業所内で支援プログラムについての検討を行っています
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		お子様一人一人の発達段階や特性を丁寧に確認をしながら、自己決定をする力に繋がるかわりを心掛けています	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者会議の場には児童発達支援管理責任者と指導員が参加し、適切な情報提供が出来るように対応しています	関係機関とのサービス担当者会議の頻度はあまり多く取れない現状があります。関係機関が今後さらに連携をしていく必要性を感じています
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			地域資源をうまく活用して、包括的にご利用者様の支援をしていく仕組みづくりは、今後も検討していかなくてはいい感じます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			基本的にお子様の情報を確認するのは保護者様を通して行っています。ただ、緊急的な対応が必要な時にすぐ対応ができるよう学校との連携ができる体制も整えていけるようにしていきます
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者様からの聞き取りだけでなく相談支援員の方などから、ご利用前の情報などを確認するようにしています	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			地域の就労福祉事業所などとの関係作りができるように働きかけしていきます
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	併用しているお子様を通して、市の発達支援センターでの療育見学や情報連携を行わせていただいています	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		必要に応じて連携が取れるよう体制づくりを行っています
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		可能な限り行政からの案内を確認して参加するようにしています	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			きらりの内部研修を担当している「発達支援研究所」とも連携し、保護者様に価値のある保護者会の開催などを今後、企画していきます
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		ご利用を開始する際のご契約時に、契約書や重要事項説明書の中でご説明しております	内容が変更したときには、保護者様へ迅速に周知ができるよう心掛けています
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画の更新に伴い、支援内容の説明と同意を都度確認しています	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		お子様だけでなく、家族支援の重要性も意識し、必要に応じて事業所内での面談などを実施しています	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		ご要望をお聞きしながら、今後実施を検討していきたいと思います
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付窓口については契約時にご説明をし、保護者様からのご意見、ご要望に関しては可能な限り迅速に対応し、対応についてのご説明を適切に行います	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		イベントのチラシ等を作成し、教室内に掲示したり、LINEや直接のお声かけで周知を行っています	定期的なイベントについては、事業所側から積極的に発信し、参加いただけるようお声かけをしています
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報に関しては個別にファイリングし、事務室のロッカー内に保管。また写真撮影に関しては個人情報の同意書での署名と適宜確認を行っています	引き続き、職員間でも相互確認をしながら個人情報の取扱いに注意をしています
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		こちらがしたいかわりを一方的に押し付けるのではなく、お子様が自身が一番やりやすい情報伝達の方法を大事にかかわりを持っています	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		必要に応じて検討していきます
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		毎月、様々な状況を想定した避難訓練を実施しています。必要に応じて利用者にも参加頂いています	緊急時の避難先についてはご契約時にご説明はしていますが、定期的にマニュアルの周知や避難訓練の報告などを発信していきます
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		各種委員会を設置し、委員会での決定事項に基づき定期的な内部の勉強会や訓練を実施しています	本部の研修チームが主体となって、法定研修や訓練の実施をおこなっています
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に保護者様から情報を確認しています	必要に応じてかかりつけ医や関係医療機関との連携が取れるようにしています
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	飲食物の提供は基本行わないが、念のためアレルギー等については事前に確認をとっています	今後も食事の提供などの予定はありませんが、お子様の情報を確認する意味でも、事業所として把握はしていきます
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		事業所ごとに安全計画を策定し職員間で共有しています。また、1年ごとの計画を更新し、事業所内で管理しています	ヒヤリハット、事故報告書の作成に関しては、職員間で共有して、必要に応じて対応ができるようにしています
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			保護者様への周知という部分にまだ課題を感じるため、どのような手段が適しているかをしっかり事業所内で検討していきます
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		危険を感じたケースがあった場合、速やかに報告書を作成し、全体への共有と再発防止に役立てています	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会の方針に沿って、伝達講習や事例検討を行っています	定期的に具体的な事例を扱い、事業所内での対応について職員間で共通認識を持つていく必要性があると感じます
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時の重要事項説明書の中で説明をして確認をいただきます。また、個別支援計画の中でも内容について記載し、更新のタイミングで都度了承をいただきます	新入職員も含め、すべての職員が共通認識の上、身体拘束の条件などの理解ができるよう今後も対応していきます